

横企基第 1 号  
平成 16 年（2004 年）4 月 26 日

外務大臣 川口 順子 様

横須賀市長 沢田 秀男

米国航空母艦「キティ・ホーク」の退役後について（要請）

本市は、従来から日米安保体制のもとで、米軍のプレゼンスが、わが国の安全保障にとって極めて重要であるとの認識を持っており、そのような観点から通常型空母が横須賀をいわゆる母港とすることを了承してきました。このことは政府としても十分ご承知のことと思います。

1 2 号バースの整備についても、あくまで通常型空母の諸元に基づく整備であるとの政府の一貫した見解のもとに、将来とも通常型空母が使用するという前提に立って、港湾管理者としての許可をしたものであります。

したがって、キティ・ホーク退役後については、如何なる措置を講じてでも、同じく通常型空母を配備すべきであると思っており、そのことが多くの日本国民の共感のもとで、より強固な日米関係を構築することになるものと考えています。

それについては、以前から数度にわたりお伝えしてきたところであります。

そのような中、1 2 号バースの延伸工事が始まったばかりであるにもかかわらず、去る 3 月 31 日に米国下院軍事委員会の公聴会でファーゴ米太平洋軍司令官が発言された内容については、本市としても重大な関心を持たざるを得ません。

米政府としては、キティ・ホーク退役後の空母配備について現時点で何らの決定もしていないということではありますが、以上のように改めて本市の考えを述べさせていただくと同時に、下記について要請いたします。

記

- 1 キティ・ホーク退役後の空母については、本市の意向を汲み、通常型空母の配備を米側に申し入れ、協議していただきたい。